

## 4 教科及び教職に関する本学開設科目

### ① 被服学科

#### a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
	被服学(被服製作実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験[2] 繊維科学[2] 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作Ⅰ② 和服製作Ⅰ② 立体裁断(2) 機能性被服材料(2) 染色加工学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2] 食物学概論(2)	6
	住居学(製図を含む。)	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4
	保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
	家庭電気・家庭機械・情報処理	1	家庭機械及び家庭電気[2] 生活情報処理[2]	4
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8
	計	24		48
	教科及び教職に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]		2
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]		2
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)		2
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]		1
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]		2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6
	学校体験活動			—
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2
	大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—
	合計	59		77

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭 1 種免許状「家庭」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	被服材料学② 被服材料学実験[2] 繊維科学[2] 繊維科学実験(2) 被服管理学[2] 界面科学(2) アパレル概論② アパレル製作Ⅰ② 和服製作Ⅰ② 立体裁断(2) 機能性被服材料(2) 染色加工学(2) 色彩学② 日本服飾文化史② 西洋服飾文化史② 服飾工芸(2)	20
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	栄養学概論[2] 食品学概論[2] 調理学実習[2]	6
		住居学	1	住居学概論[2]	2
		保育学(実習を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8
		計	28		42
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2	
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
	学校体験活動			—	
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得		
合計		59		75	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
食 品 学 概 論	2	半 期	講義	2	2	
栄 養 学 概 論	2	半 期	講義	2 または 3	2	
保育学（含実習及び家庭看護）	2	半 期	講義	3	2	
調 理 学 実 習	2	通 年	講義・実習	3	4	
家 庭 機 械 及 び 家 庭 電 気	2	半 期	講義	1～3	2	
製 図 及 び 家 庭 工 作 学	2	半 期	講義	3	2	
生 活 情 報 処 理	2	半 期	講義	3	2	
家 庭 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
家 庭 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	2	2	
家 庭 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
家 庭 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)被服学科の「専門教育科目」の家政学部共通科目として2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。(家庭科教育法を除く)

d 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

② 食物学科 食物学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「家庭」

(2022年度入学生から適用)

全課程	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4	
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4	
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食安全学Ⅱ(2)	23	
		住居学(製図を含む。)	1	住居学概論[2] 製図及び家庭工作学[2]	4	
		保育学(実習及び家庭看護を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2	
		家庭電気・家庭機械・情報処理	1	家庭機械及び家庭電気[2] 生活情報処理[2]	4	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—	
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
		計	24		49	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]		2	
教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
		生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6	
		学校体験活動		—		
		教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]	2
	大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—		
	合計	59		78		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭 1 種免許状「家庭」

(2022年度入学生から適用)

全課程	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1	家庭経営学概論(含家庭経済学)[2] 家族関係論[2]	4	
		被服学(被服製作実習を含む。)	1	衣生活概論[2] 被服材料学(2) 被服工作(和)(洋)[2]	4	
		食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)	1	生化学② 栄養化学Ⅰ② 食品化学② 食品化学実験① 食品学② 食品学実験① 食安全学Ⅰ② 食安全学実験① 栄養教育論Ⅰ② 栄養教育論Ⅱ② 基礎調理学実習① 調理科学Ⅰ② 調理科学Ⅱ(2) 調理科学実験[1] 食事設計論② 食文化論(2) 食安全学Ⅱ(2)	23	
		住居学	1	住居学概論[2]	2	
		保育学(実習を含む。)	1	保育学(含実習及び家庭看護)[2]	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	家庭科教育法Ⅰ[2] 家庭科教育法Ⅱ[2] 家庭科教育法Ⅲ[2] 家庭科教育法Ⅳ[2]	8	
	計		28		43	
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
			教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
	教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2
総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間要説[1]		1	
特別活動の指導法			特別活動要説[2]		2	
教育の方法及び技術			教育の方法と技術[2]		2	
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			ICT活用の理論と実践[1]		1	
生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導論[2]		2	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			教育相談[2]		2	
教科実践に関する科目	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
		学校体験活動			—	
		教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得		—	
合計		59		76		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 栄養教諭 2 種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
栄養に係る教育及び教職に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	学校栄養教諭論[2]	2
		幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
		食生活に関する歴史的及び文化的事項			
		食に関する指導の方法に関する事項			
	計		2		2
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	5	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
	道徳、総合的な学習の時間等の教育相談等に関する科目	道徳・総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	3	道徳教育要説[2] 総合的な学習の時間要説[1] 特別活動要説[2]	5
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術[2]	2
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導論[2]	2
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習(含事前事後指導)[2]	2	
	教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭)[2]	2	
大学が独自に設定する科目				—	
合計		14		28	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

d 教科及び教科の指導法に関する科目「家庭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
保育学（含実習及び家庭看護）	2	半 期	講義	2	2	
衣 生 活 概 論	2	半 期	講義	2	2	
被 服 材 料 学	2	半 期	講義	2 または 3	2	選択
被服工作（和）（洋）	2	通 年	実習	2	4	
製 図 及 び 家 庭 工 作 学	2	半 期	講義	3	2	
家庭機械及び家庭電気	2	半 期	講義	3	2	
生 活 情 報 処 理	2	半 期	講義	3	2	
家庭科教育法Ⅰ	2	半 期	講義	2	2	「家庭」のみ
家庭科教育法Ⅱ	2	半 期	講義	2	2	「家庭」のみ
家庭科教育法Ⅲ	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
家庭科教育法Ⅳ	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)食物学科の「専門教育科目」の家政学部共通科目として2単位を卒業に必要な単位に含めることができます。（家庭科教育法を除く）

e 教育の基礎的理解に関する科目等「家庭」「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特別支援教育要説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教育の方法と技術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	「家庭」のみ
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
生 徒 指 導 論	2	半 期	講義	3 または 4	2	「栄養教諭」のみ
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 Ⅰ	2	2 週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教 育 実 習 Ⅱ	2	2 週間	実習	4	○	「家庭」のみ
教育実習指導Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	「家庭」のみ
教育実習指導Ⅱ	2	半 期	講義	4	2	「家庭」のみ
栄養教育実習（含事前事後指導）	2	1 週間	実習	4	○	「栄養教諭」のみ
教職実践演習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	「家庭」のみ
教職実践演習（栄養教諭）	2	半 期	演習	4	2	「栄養教諭」のみ

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は、教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」、「教職実践演習（栄養教諭）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

③ 食物学科 管理栄養士専攻

a 栄養教諭1種免許状

(2019年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養教諭論Ⅰ [2] 学校栄養教諭論Ⅱ [2]	4
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項			
	食生活に関する歴史的及び文化的事項			
	食に関する指導の方法に関する事項			
	計	4		4
教育に係る教育及び教職に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理 [2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学 (2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の教育相談等に関する科目	道徳・総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育要説 [2] 特別活動要説 [2] 総合的な学習の時間要説 [1]	5
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育の方法と技術 [2]	2
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論 [2]	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談 [2]	2
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教育実習(含事前事後指導) [2]	2
	教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭) [2]	2
大学が独自に設定する科目				—
合計		22		30

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。



b 教育の基礎的理解に関する科目等「栄養教諭」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
生 徒 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
栄養教育実習（含事前事後指導）	2	1 週間	実習	4	○	
教職実践演習（栄養教諭）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教職実践演習（栄養教諭）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

④ 日本文学科

a 高等学校教諭1種免許状「国語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数	
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義[2]	4
	国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義[2] 中古文学講義[2] 中世文学講義[2] 近世文学講義[2] 近代文学講義[2] 現代文学講義[2]	28
	漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義[2]	6
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	4	国語科教育法Ⅰ[2] 国語科教育法Ⅱ[2] 国語科教育法Ⅲ[2] 国語科教育法Ⅳ[2]	8
	計	24		46
教科及び教職に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6
	学校体験活動			—
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—
合計		59		75

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭1種免許状「国語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)		最低修得単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1	日本語学概説② 日本語学講義[2]	4
		国文学(国文学史を含む。)	1	日本古典文学入門② 上代文学概説② 中古文学概説② 中世文学概説② 近世文学概説② 近代文学概説② 現代文学概説② 変体仮名読解② 上代文学講義[2] 中古文学講義[2] 中世文学講義[2] 近世文学講義[2] 近代文学講義[2]	28
		漢文学	1	漢文学入門② 漢文学概説② 漢文学講義[2]	6
		書道(書写を中心とする。)	1	書法総合演習Ⅰ[2] 書法総合演習Ⅱ[2]	4
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			—
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8	国語科教育法Ⅰ[2] 国語科教育法Ⅱ[2] 国語科教育法Ⅲ[2] 国語科教育法Ⅳ[2]	8
		計	28		50
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育要説[2]	2		
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1		
	特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2		
	教育の方法及び技術	教育の方法と技術[2]	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用の理論と実践[1]	1		
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8		
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)[2]	2		
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—	
合計		59		83	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
書 法 総 合 演 習 I	2	半 期	演習	2	2	
書 法 総 合 演 習 II	2	半 期	演習	2	2	
国 語 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
国 語 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
国 語 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「書法総合演習Ⅰ」、「書法総合演習Ⅱ」は、日本文学科の「専門教育科目」の選択科目として、卒業に必要な単位に含めることができます。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「国語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前および事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

⑤ 英語英文学科

a 高等学校教諭1種免許状「英語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声・音韻)(2) 英語学(語彙・形態)(2) 英語学(語法・文法)(2) 英語学(意味・語用)(2) 英語学(特論)(2)	14	
		英語文学	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英文学(近代)(2) 英文学(現代)(2) 英文学(特論)(2) 米文学(近代)(2) 米文学(現代)(2) 米文学(特論)(2)	8	
		英語コミュニケーション	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English 1A(2) Academic English 1B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)(2) ISEC(2) Academic English 2A(2) Academic English 2B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 上級英語A(2) 上級英語B(2)	8	
		異文化理解	イギリス入門② アメリカ入門② 海外ボランティア(2) 異文化間コミュニケーション1[2] 異文化間コミュニケーション2[2] 英米文化(言語)(2) 英米文化(社会)(2) 英米文化(映像・身体表現)(2) 英米文化(特論)(2)	8	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8
	計		24		46
教科及び教職に関する項目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理[2]	2	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門[2]	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度要説(含学校経営)[2]	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学[2] 青年心理学(2)	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育要説[1]	1	
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論[2]	2	
道徳、総合的な学習の時間等の教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間要説[1]	1		
	特別活動の指導法	特別活動要説[2]	2		
	教育の方法及び技術	教育の方法と技術[2]	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用の理論と実践[1]	1		
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6		
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)[2]	2		
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		75	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭 1 種免許状「英語」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数			
教科及び教職に関する科目	科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	1	英語発音入門② 英文法(基礎)1② 英文法(基礎)2② 英文法(発展)1② 英文法(発展)2② 英語学入門1② 英語学入門2② 英語音声学演習(2) 英語学(音声・音韻)(2) 英語学(語彙・形態)(2) 英語学(語法・文法)(2) 英語学(意味・語用)(2) 英語学(特論)(2)	14
英語文学			1	英文学入門1② 英文学入門2② 米文学入門1② 米文学入門2② 英文学(近代)(2) 英文学(現代)(2) 英文学(特論)(2) 米文学(近代)(2) 米文学(現代)(2) 米文学(特論)(2)	8	
英語コミュニケーション			1	英文講読(基礎)1② 英文講読(基礎)2② 英文講読(発展)1② 英文講読(発展)2② Academic English 1A(2) Academic English 1B(2) Speaking(Basic)A(2) Speaking(Basic)B(2) Extensive Reading(Basic)(2) ISEC(2) Academic English 2A(2) Academic English 2B(2) Speaking(Intermediate)A(2) Speaking(Intermediate)B(2) Special Topics through English(2) Speaking(Advanced)(2) 上級英語 A(2) 上級英語 B(2)	8	
異文化理解			1	イギリス入門② アメリカ入門② 海外ボランティア(2) 異文化間コミュニケーション1[2] 異文化間コミュニケーション2[2] 英米文化(言語)(2) 英米文化(社会)(2) 英米文化(映像・身体表現)(2) 英米文化(特論)(2)	8	
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					—	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	英語科教育法Ⅰ[2] 英語科教育法Ⅱ[2] 英語科教育法Ⅲ[2] 英語科教育法Ⅳ[2]	8		
計		28		46		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育原理[2]	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			教職入門[2]	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育制度要説(含学校経営)[2]	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学[2] 青年心理学(2)	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育要説[1]	1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論[2]	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		10	道徳教育要説[2]	2	
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法			特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術			教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習		5	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ[2] 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	8	
	学校体験活動				—	
	教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—		
合計		59		79		

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
英 語 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
英 語 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
英 語 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「英語」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

⑦ 児童学科 児童教育専攻

a 小学校教諭1種免許状

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科教育②	2	
		社会	社会科教育②	2	
		算数	算数科教育②	2	
		理科	理科教育②	2	
		生活	生活科教育②	2	
		音楽	音楽科教育②	2	
		図画工作	図工科教育②	2	
		家庭	家庭科教育②	2	
		体育	体育科教育②	2	
		外国語	小学校外国語教育②	2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			国語科指導法[2] 社会科指導法[2] 算数科指導法[2] 理科指導法[2] 生活科指導法[2] 音楽科指導法[2] 図工科指導法[2] 家庭科指導法[2] 体育科指導法[2] 小学校外国語指導法[2]	20
	計		30		40
	教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理B②	2
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			教師論②	2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育経営論B②	2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学②	2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育B②	2	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			教育課程論B②	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳の理論及び指導法	道徳教育論②	2	
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の学びと指導法②	2	
		特別活動の指導法	特別活動論②	2	
		教育の方法及び技術	教育方法論②	2	
関する実践に	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	子どもの学びとICT[2]	2		
	生徒指導の理論及び方法	学級経営と集団づくり(2) 生徒・進路指導の理論及び方法②	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育相談②	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法				
	教育実習	教育実習(小学校)(4) 特別教育実習(小学校)(4) 小学校実習特講[1]	5		
	学校体験活動		—		
教職実践演習	教職実践演習(小学校)[2]	2			
大学が独自に設定する科目		2	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得 小学校総合演習Ⅰ(2) 小学校総合演習Ⅱ(2)	—	
合計		59		73	

注(1)本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

注(2)「小学校実習特講」は、教育実習に係る事前及び事後の指導とし、4年次の実習の前後に行います。

注(3)「教育実習(小学校)」、「特別教育実習(小学校)」は選択必修科目であり、いずれか1科目を履修します。「特別教育実習(小学校)」は、東京都教育委員会等が主催する教師養成に関する特別実習コースに参加する者だけが履修できます。本コースは東京都等が公立小学校教員を強く希望する者のなかから選考し、4年次に教育実習のほか体験活動・ゼミナール・講義などを行うものです。詳細は学科ガイダンス等で説明します。

注(4)「教職実践演習(小学校)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開催されます。



b 中学校教諭 1 種免許状「理科」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎② 科学する心(エネルギー編) [2] 生活と物理 [2]	6
		物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	物理学基礎実験 I ① 物理学基礎実験 II [1]	2
		化学	1	化学の基礎② 科学する心(粒子編) [2] 生活と化学 [2]	6
		化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	化学基礎実験 I ① 化学基礎実験 II [1]	2
		生物学	1	生物の基礎② 科学する心(生命編) [2] 生物と環境 [2]	6
		生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	生物学基礎実験 I ① 生物学基礎実験 II [1]	2
		地学	1	地学の基礎② 科学する心(地球編) [2] 地球と環境 [2]	6
		地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	1	地学基礎実験 I ① 地学基礎実験 II [1]	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		8	理科教育法 I [2] 理科教育法 II [2] 理科教育法 III [2] 理科教育法 IV [2]	8
	計		28		40
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理 B ②	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		教師論 ②	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育経営論 B ②	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 ②	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育 B ②	2
		教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 B ②	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育論 ②	2	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の学びと指導法 ②	2	
	特別活動の指導法		特別活動要説 ②	2	
	教育の方法及び技術		教育方法論 ②	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		子どもの学びと ICT [2]	2	
	生徒指導の理論及び方法		学級経営と集団づくり (2) 生徒・進路指導の理論及び方法 ②	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談 ②	2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	中学校実習指導 [1] 教育実習(中学校) [4]	5	
	学校体験活動				
	教職実践演習	2	教職実践演習(小・中) [2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	子どもの学びと自然 (2) 野外活動支援演習 (2) サイエンス・エドゥケーター論 (2) 子どもと科学する心 ② 児童学基礎体験演習 I ② 児童学基礎体験演習 II ②	6	
合計		59		79	

注(1)本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

注(2)「教職実践演習(小・中)」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

⑧ 社会情報学科 社会生活情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	1	社会情報概論[2] 情報社会論(2) 情報倫理(2)	2
		コンピュータ・情報処理(実習を含む。)	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習I(2) アルゴリズム論及び演習II(2)	10
		情報システム(実習を含む。)	1	情報システム論及び実習I[2] 情報システム論及び実習II[2] 情報リテラシー演習(2)	4
		情報通信ネットワーク(実習を含む。)	1	情報ネットワーク論及び実習I[2] 情報ネットワーク論及び実習II[2] メディア史(2)	4
		マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。)	1	オンラインデータ分析[2] メディア運用演習[2] 情報分析演習(2) メディア学基礎(2) 情報表現法(2)	4
		情報と職業	1	情報と職業[2] 社会政策・労働問題(2) 情報と法律(2)	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	情報科教育法I[2] 情報科教育法II[2]	4
	計		24		42
				※12単位は教科に関する専門的事項の選択科目24単位から選択	12
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]	2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1
		特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2
		教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1
生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論[2]	2			
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談[2]	2			
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習I[2] 教育実習II(2) 教育実習指導I[2] 教育実習指導II[2]	6	
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		71	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情報科教育法Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	
情報科教育法Ⅱ	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 Ⅰ	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 Ⅱ	2	2 週間	実習	4	○	選択
教 育 実 習 指 導 Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 Ⅱ	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

⑨ 社会情報学科 環境情報学専攻

a 高等学校教諭1種免許状「理科」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎Ⅰ [2] 物理の基礎Ⅱ [2] エネルギーと環境(2) 力とかたちⅠ(2)	4
		化学	1	化学の基礎Ⅰ [2] 化学の基礎Ⅱ [2] 環境科学(2)	4
		生物学	1	生物の基礎Ⅰ [2] 生物の基礎Ⅱ [2] エコロジーⅠ [2] エコロジーⅡ(2) 生命のしくみ(2) 生命科学とくらし(2)	6
		地学	1	地学の基礎Ⅰ [2] 地学の基礎Ⅱ [2] 地球環境論(2)	4
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、 化学実験(コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、 地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	物理基礎実験(2) 化学基礎実験(2) 生物基礎実験(2) 地学基礎実験(2)	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	理科教育法Ⅰ [2] 理科教育法Ⅱ [2] 理科教育法Ⅲ [2] 理科教育法Ⅳ [2]	8
	計		24	※11単位は教科に関する専門的事項の選択科目22単位から選択	39
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理 [2]	2
		教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門 [2]	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営) [2]	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 [2] 青年心理学(2)	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説 [1]	1
		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論 [2]	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説 [1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説 [2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術 [2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践 [1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論 [2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談 [2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	6	
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高) [2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		68	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 中学校教諭 1 種免許状「理科」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
	科目	単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	1	物理の基礎Ⅰ [2] 物理の基礎Ⅱ [2] エネルギーと環境(2) 力とかたちⅠ(2)	4
		物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	物理基礎実験[2]	2
		化学	1	化学の基礎Ⅰ [2] 化学の基礎Ⅱ [2] 環境科学(2)	4
		化学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	化学基礎実験[2]	2
		生物学	1	生物の基礎Ⅰ [2] 生物の基礎Ⅱ [2] エコロジーⅠ [2] エコロジーⅡ (2) 生命のしくみ(2) 生命科学とくらし(2)	6
		生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	生物基礎実験[2]	2
		地学	1	地学の基礎Ⅰ [2] 地学の基礎Ⅱ [2] 地球環境論(2)	4
		地学実験(コンピュータ活用を含む。)	1	地学基礎実験[2]	2
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		8	理科教育法Ⅰ [2] 理科教育法Ⅱ [2] 理科教育法Ⅲ [2] 理科教育法Ⅳ(2)	8
				※8単位は教科に関する専門的事項の選択科目14単位から選択	8
	計		28		42
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]		2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]		2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育要説[2]	2	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習Ⅰ [2] 教育実習Ⅱ [2] 教育実習指導Ⅰ [2] 教育実習指導Ⅱ [2]	8	
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて4単位以上を修得	—	
合計		59		75	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

c 教科及び教科の指導法に関する科目「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
理 科 教 育 法 I	2	半 期	講義	2	2	
理 科 教 育 法 II	2	半 期	講義	2	2	
理 科 教 育 法 III	2	半 期	講義	3	2	
理 科 教 育 法 IV	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

d 教育の基礎的理解に関する科目等「理科」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
道 徳 教 育 要 説	2	半 期	講義	3	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 I	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 II	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 指 導 I	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 II	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習 ( 中 ・ 高 )	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。

⑩ 社会情報学科 情報デザイン専攻

a 高等学校教諭1種免許状「情報」

(2022年度入学生から適用)

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学開設科目及び最低修得単位数		
科目		単位数	本学開設科目(単位)	最低修得単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会・情報倫理	1	社会情報概論[2] 情報社会論(2)	2	
	コンピュータ・情報処理(実習を含む。)	1	情報処理実習A② 情報処理実習B② コンピュータの基礎② プログラミングの基礎② プログラミング基礎演習② 情報処理原論② ソフトウェア概論(2) アルゴリズム論及び演習Ⅰ(2) アルゴリズム論及び演習Ⅱ(2) スマートデバイス応用Ⅰ(2) スマートデバイス応用Ⅱ(2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅰ(2) オブジェクト指向プログラミング論及び演習Ⅱ(2)	12	
	情報システム(実習を含む。)	1	情報システム論及び実習Ⅰ② 情報システム論及び実習Ⅱ② 経営情報システム論(2) シミュレーション論(2)	4	
	情報通信ネットワーク(実習を含む。)	1	情報ネットワーク論及び実習Ⅰ[2] 情報ネットワーク論及び実習Ⅱ[2] WebプログラミングⅠ(2) WebプログラミングⅡ(2)	4	
	マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。)	1	マルチメディア論及び実習Ⅰ[2] マルチメディア論及び実習Ⅱ[2] ニューメディア論Ⅰ(2) ニューメディア論Ⅱ(2) コンピュータ・グラフィックスⅠ(2) コンピュータ・グラフィックスⅡ(2) 画像情報処理論及び演習(2) ウェブデザイン(2)	4	
	情報と職業	1	情報と職業[2] 社会政策・労働問題(2)	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				—
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		4	情報科教育法Ⅰ[2] 情報科教育法Ⅱ[2]	4
	計		24	※10単位は教科に関する専門的事項の選択科目38単位から選択	42
	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理[2]	2
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門[2]		2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度要説(含学校経営)[2]		2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学[2] 青年心理学(2)		2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育要説[1]		1	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論[2]		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8	総合的な学習の時間要説[1]	1	
	特別活動の指導法		特別活動要説[2]	2	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術[2]	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践[1]	1	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論[2]	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談[2]	2	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習Ⅰ[2] 教育実習Ⅱ(2) 教育実習指導Ⅰ[2] 教育実習指導Ⅱ[2]	6	
	学校体験活動		—		
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)[2]	2	
大学が独自に設定する科目		12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得	—	
合計		59		71	

注 本学開設科目(単位)欄のうち、○の数字は卒業必修単位、[ ]の数字は教職課程履修者必修単位です。

b 教科及び教科の指導法に関する科目「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2019年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
情報科教育法Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	
情報科教育法Ⅱ	2	半 期	講義	3	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

c 教育の基礎的理解に関する科目等「情報」（教職課程独自の科目として開講する科目）

(2022年度入学生から適用)

授業科目名	単 位	期 間	講義・演習等の別	配当年次	時間数	備 考
教 育 原 理	2	半 期	講義	2	2	
教 職 入 門	2	半 期	講義	1	2	
教育制度要説（含学校経営）	2	半 期	講義	2	2	
教 育 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	
青 年 心 理 学	2	半 期	講義	2	2	選択
特 別 支 援 教 育 要 説	1	集 中	講義	2	1	
教 育 課 程 論	2	半 期	講義	2	2	
総合的な学習の時間要説	1	集 中	講義	3	1	
特 別 活 動 要 説	2	半 期	講義	3	2	
教 育 の 方 法 と 技 術	2	半 期	講義	3	2	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	集 中	講義	3	1	
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2	半 期	講義	3	2	
教 育 相 談	2	半 期	講義	2	2	
教 育 実 習 Ⅰ	2	2 週間	実習	4	○	
教 育 実 習 Ⅱ	2	2 週間	実習	4	○	選択
教 育 実 習 指 導 Ⅰ	2	半 期	講義	3	2	
教 育 実 習 指 導 Ⅱ	2	半 期	講義	4	2	
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	半 期	演習	4	2	

注(1)時間数は1週間の授業時間数です。

注(2)各科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

注(3)「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」は教育実習に係る事前及び事後の指導を含み、それぞれ3年後期、4年前期に開講されます。

注(4)「教職実践演習（中・高）」は、教員として必要な知識・技能を修得したことを確認するための総まとめの科目で、4年後期に開講されます。